

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	2014年 12月 13日
科目区分 (該当するものをに○)	<input type="checkbox"/> 共通教育科目 : () 必修 (○) 選択 <input type="checkbox"/> 学科・課程専門科目 : () 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものをに○)	(○) 1年 (○) 2年
授業科目名	日本語表現法
担当教員名	竹内 敏晴

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記 入 欄

履修学生は、短期大学生と大学生がほぼ同数である。

問1の予習・復習の習慣に関しては、「ほぼ毎回する」が半数の50%（11名）、次いで「全くしない」と「毎日する」が同数の18.2%（4名）、「たまにする」13.6%（3名）であった。漢字の5分間テスト（20問）を毎回授業開始時行っていることもあり、予習・復習を行っている割合が7割程度と比較的高い数字になったと思われる。漢字テストを行わなくても予習・復習を行う学習習慣をどう育てるかがさらなる課題になるので、自宅で行い翌週提出または発表する課題を出し、学習意欲の喚起に努めたが、取り組んでこない学生が半数程度見受けられ、課題内容の工夫を要すると思った。

問2の難易度に関しては、「理解できないときがある」が2名（9%）に対し、「ほぼ理解できる」と「易しい」と答えた者が20名（91%）なので、学生の大半は理解出来たと受け取れる。

問3の授業スピードについては、22名全員（100%）が「ちょうど良い」と答えているので、現在の進行スピードを維持しつつ、授業内容の検討・方法の改善をさらに検討していきたいと思う。

要望に関する記述は特になかったが、「為になる授業なので、とてもたのしいです」、「とても楽しく受けてます」という感想に、入社試験や社会人としてのマナー習得の一つとして日本語表現（さまざまな文章作成や漢字や慣用句・諺など）を学ぼうと積極的に取り組んでいる学生の姿勢が感じられ、今後の教材研究の励みとなった。

授業改善等に関する報告書（平成 26 年度後期）短期大学部

記入年月日	2015年 2月 21日
科目区分 (該当するものを○)	共通教育科目： () 必修 () 選択 学科・課程専門科目： (○) 必修 () 選択必修 () 選択
対象学年 (該当するものを○)	(○) 1年 () 2年
授業科目名	図書館情報資源概論
担当教員名	松尾昇治

教育効果の向上を目的として実施した工夫や取り組み等について、また学生の要望に対する対応（フィードバック）等について、ご記入下さい。

記入欄

本授業で学生に対して行ったアンケートの集計について報告します。

授業のテーマについては、單元ごとにレジュメを配布していますが、事前の学習は殆どの学生ができていません。また、復習についても、レジュメを読み直すことのない学生が多いのですが、2名が「ほぼ毎回読み直した」と回答しています。今後、予習復習の習慣を付けさせる工夫が必要と考えます。

授業の難易度については、「ほぼ理解できる」と回答した学生が多いのですが、「難しい」「理解できないときがある」との回答者が4名いました。レジュメについては、図や写真を入れてビジュアルに作成していますが、授業の中での説明を工夫する必要を感じます。

授業の進行スピードは「ちょうど良い」とすべての学生が回答していますので、満足のいく速さであったと思います。

授業内容の量についても「ちょうど良い」と殆どの学生が回答していますので、適量のレベルと考えます。

全体的に授業の内容については、興味・関心を示してくれたと判断します。その中でも、VTR等の視聴覚教材の使用は、学生のテーマ理解を助けていることがアンケートから再認識しましたので、今後の改善として充実を図っていきたいと思います。